新年度学校経営方針

◇学校経営の基底

◇千歳市立緑小学校　学校経営グランドデザイン

◇学校経営

Ⅰ　緑小学校の教育目標
Ⅱ　緑小学校のめざす子ども像
Ⅲ　教育目標の具現化でめざす姿
Ⅳ　年度の重点教育目標
Ⅴ　学校経営プログラム
Ⅵ　学校経営方針
Ⅶ　重点教育目標達成のための実践課題
Ⅷ　今年度の最重要課題

◇学 校 経 営 の 基 底

教育基本法

第一条(教育の目的)

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

第二条(教育の目標)

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一　幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

二　個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んじる態度を養うこと。

三　正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

四　生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

五　伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

学校教育法

第四章　小学校

第二十九条

小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とする。

第三十条

小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

②　前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

第三十一条

小学校においては、前条第一項の規定による目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり、児童の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする。この場合において、社会教育関係団体その他の関係団体及び関係機関との連携に十分配慮しなければならない。

北海道教育の基本理念

(1) 基本理念

自立：自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人をはぐくむ

共生：ふるさとへの誇りと愛着をもち、これからの社会に貢献し、ともに支え合う人をはぐくむ

(2) 計画の目標

① 社会で活きる力　② 豊かな人間性　③ 健やかな体
④ 学びを支える地域・家庭　⑤ 学びをつなぐ学校づくり
⑥ 学びを生かす地域社会

石狩管内教育推進の重点

目標１　社会で活きる力

○義務教育における確かな学力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

～学力向上に向けた検証改善サイクルの確立

○特別支援教育の充実

～切れ目のない一貫した指導や支援の充実

～高い専門性に基づく特別支援教育の推進

○国際理解教育の充実

～国際理解教育の充実

～外国語教育の充実

○理数教育の充実

～興味・関心を高める理科、算数・数学の指導の充実

～探究の過程を重視した理数教育の充実

目標２　豊かな人間性

○道徳教育の充実

～道徳教育の充実に向けた教員研修の推進

～道徳教育を推進するための教材等の活用や開発

～人権教育の充実

○ふるさと教育の充実)

～アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教育の充実

～北方領土に関する教育の充実

○いじめ・不登校を解消する取組の充実

～いじめへの取組の充実

～不登校への取組の充実

目標３　健やかな体

○体力・運動能力の向上

～学校における体力向上の取組の推進

～学校、家庭、地域が一体となった児童生徒の運動機会の充実

目標４　学びを支える地域・家庭

○学校と地域の連携・協働の推進

～地域の教育力を活かした学校づくりの推進

～地域の特色を活かした子どもの活動拠点づくりの推進

目標５　学びをつなぐ学校づくり

○学校段階間の連携・接続の推進

～幼稚園・認定こども園・保育所と小学校の連携

～小学校と中学校との連携

目標６　学びを生かす地域社会

○生涯学習の振興

～生涯にわたる学習活動の促進

～地域の実態に即した学習環境づくり

５ 千歳市教育推進の重点・施策

（１）教育行政の基本姿勢

①「未来への飛翔・すべては子どもたちのために」

②「学びの意欲と豊かな心を育む文化のまち」

（２）教育重点施策

①「確かな学力の向上」

②「教育環境の整備」

③「外国語教育の充実」

④いじめ・不登校の対策

⑤生涯学習の推進

（３）主な施策（学校教育）

①「ふるさと千歳への感謝と希望を育てる」

②「国際都市千歳にふさわしいグローバルな感覚を育てる」

③「知的な探究心を持ち積極的に行動する力を育てる」

（４）主な施策（社会教育）

①いつでも、どこでも、だれもが学びあえる仕組みづくりの推進

② 社会の変化や今日的課題などに対応した、様々な学習機会の充実

③ 市民ニーズに対応し、安全で快適に利用ができる社会教育施設の充実

④ 多様な文化鑑賞機会の充実と文化活動の支援

⑤ 文化財の保護と継承

⑥ 思いやりの心とチャレンジ精神を育む青少年健全育成活動の推進

◇千歳市立緑小学校　学校経営グランドデザイン

学校教育目標

私たちは未来へと進む緑小の子ども

・なかよく元気に遊びます－からだ（体）　・すすんで学び考えます－あたま（知）

・めあてをもって努力します－生きる力（意）　・人や地球にやさしくします－こころ（情）

めざす学校像

○子ども一人一人に「生きる力」を確実にはぐくむ学校

○諸課題を組織的に解決するために、教職員が協働する学校

○地域・家庭の信頼と協力を得て、チーム力で子どもを育てる学校

年度の重点教育目標

自ら学び、共に高め合い、確かな学力と豊かな心を育む

めざす子ども像：「やさしさ　やる気　こん気　いっぱいの緑っ子」

地域　家庭

経営方針(基本姿勢と４つの方針)

基本姿勢：総がかりで子どもの自己有用感を高め、主体性を引き出す

1　チーム学校として教職員相互の信頼と協働による教育活動を推進する

2　学習の効果の最大化を図り、「生きる力」を高める教育活動を推進する

3　児童の実態に応じて、主体的で協働的な力を高める教育活動を推進する

4　家庭、地域、他校種との連携による教育活動を推進する

学校

年度の重点教育目標達成のための実践課題

1　学校経営・学校運営	2　校務経営、学年学級教室経営	3　職員研修
4　教育課程	5　確かな学力	6　健やかな体
7　豊かな心	8　生徒指導	9　特別支援教育
10　教育環境	11　保護者・地域・他校種との連携	
12　幼保小中連携		

◇学校経営

Ⅰ　緑小学校の教育目標

私たちは未来へと進む緑小の子ども
- なかよく元気に遊びます・・・・・・・・・・・・・・・・からだ　（体）
- すすんで学び考えます・・・・・・・・・・・・・・・・・あたま　（知）
- めあてをもって努力します・・・・・・・・・・・・・・・生きる力（意）
- 人や地球にやさしくします・・・・・・・・・・・・・・・こころ　（情）

（平成９年１１月２９日 制定）４０周年時改訂

前文

「私たちは　未来へとすすむ　緑小の子ども」この前文は、緑小学校の児童が２１世紀と次代を担う主人公であることを宣言しています。主人公となるためには、具体的に次の４項目を身につけていくことが大切です。

１　なかよく元気に遊びます・・・・・・・・・・・・からだ（体）

この項は、健康な心と体、人間の生命や安全、スポーツへの積極的な参加、友との交流（友情）を大切にしています。元気よく友達と遊び、いじめとは無関係なさわやかな交友が広がることを願っています。

２　すすんで考えます・・・・・・・・・・・・・・・・・・あたま（知）

この項は、自分なりの考えや方法によって学習に関わって、解決できた喜びをバネに、すすんで学ぼうとする態度を大切にしています。昔は、勉強といえば子どもの時にするものでしたが、科学技術の進歩や変化の激しい社会にあって、生涯にわたって学習することが求められています。小学校ではその基礎になる考え方や態度を育てています。「なぜだろう」（思考力）と考えたり、自分の考えを発表したり（表現力）、どうしたらよいか考えたり（判断力）、新しく工夫したりする態度（創造力）が関連して重要なことになります。

３　めあてをもって努力します・・・・・・・・・・生きる力（意）

この項は、価値観多様な今日、自分の目標を持って自分なりのやり方や考え方で努力することを大切にし、生きる力の根幹をなすものです。目標を達成するためには、個人として努力するだけでなく、人は社会的な存在であることから、さまざまな関わり（自然体験、生活体験、社会体験など）を持ちながら努力していくことになります。そのためには、自主、自律、連帯などが、関連して重要なことになります。

４　人や地球にやさしくします・・・・・・・・・・こころ（情）

この項は、人としてのやさしさと思いやり（人間愛、豊かな人間性）、地球全体の環境を大切にする事を目標にしています。日本人が長い歴史の中で作り上げた美しい自然・文化や地球環境を守ることは、これからの時代に最も重要なことです。

Ⅱ　緑小学校のめざす子ども像

やさしさ　やる気　こん気いっぱいの緑っ子

- やさしさいっぱい　だれに対してもやさしく思いやりが表せる子ども
- やる気いっぱい　物事に対して意欲にあふれた子ども
- こん気いっぱい　最後まであきらめず取り組む子ども

Ⅲ　教育目標の具現化でめざす姿

教	観点	低学年	中学年	高学年
仲良く元気に遊びます・体	安全	○安全に気をつけ、遊んだり運動したりすることができる。	○友達と安全に気をつけ、遊んだり運動したりすることができる。	○危険を予知し、友達と安全に気をつけ、遊んだり運動したりすることができる。
	運動・体力	○進んで運動や遊びに取り組むことができる。	○進んで運動や遊びに取り組み、体を鍛えることができる。	○進んで運動や遊びに取り組み、目標をもって体力づくりに励むことができる。
	食育・給食	○食事のマナーを身につけ、感謝の気持ちを持って楽しく食事とることができる。	○健康によい食事の取り方を身につけ、他の人と関わりながら食事をとることができる。	○望ましい食事や食習慣を身につけ、自らの健康に気をつけることができる。
すすんで考えます・知	意欲・関心	○学習の基本的な態度を身につけ、楽しく学習することができる。	○学習の基本的な態度を身につけ、進んで学習することができる。	○学習の基本的な態度を身につけ、自分の課題を意識して学習することができる。
	聞く・話す	○話を最後まで聞き、自分の考えを相手にわかるように話すことができる。	○要点をつかんで話を聞き、自分の考えを筋道立てて話すことができる。	○自分の考えと比べながら聞き、相手や目的に応じて話すことができる。
	表現・学び合い	○話題や課題に沿って、話し合うことができる。	○互いの考えや相違点や共通点を考えながら話し合うことができる。	○自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことができる。
	読書	○いろいろな本に親しむことができる。	○いろいろな本を進んで読むことができる。	○目的に応じて、図書や資料を読むことができる。
めあてを持って努力します・意	きまり・約束	○みんなのことを考え、きまりや約束を守ることができる。	○きまりや約束の大切さを知り、進んで守ることができる。	○社会や集団のきまりや約束を守り、進んで自分の役割を果たすことができる。
	目標・努力・やり抜く	○あきらめないで最後までやり抜くことができる。	○目標を持ち、最後までやり抜くことができる。	○目標実現のために、工夫しながら最後までやり抜くことができる。
	勤労	○清掃や係の仕事に慣れ、意欲的に働くことができる。	○自分のやるべき仕事を理解し、意欲的に働くことができる。	○自分のやるべき仕事を見つけ、意欲的に働くことができる。
	認め合い	○だれとでも仲良く活動することができる。	○互いに助け合い活動することができる。	○相手の気持ちや立場を考えながら活動することができる。
人や地球にやさしくします・情	あいさつ・言葉	○元気よくあいさつすることができる。	○明るく、元気にあいさつすることができる。	○時と場に応じ、明るく元気にあいさつがすることができる。
	やさしさ・思いやり	○友達のよさをみつけることができる。	○友達のよさを認め合うことができる。	○お互いの立場や考え、心情を尊重して交流することができる。
	生命尊重	○草花や小動物の世話をすることができる。	○身近な自然や動植物に関心を持ったり、美しさを感じたりすることができる。	○命の大切さを知り、美しいものや崇高なものに感動し表現することができる。
	ユネスコスクールとして	○身近な「人」「自然」「環境」などとのかかわりに気づくことができる。	○「環境」「文化」「人権・平和」「生命尊重」などについて正しく理解することができる。	○「環境」「文化」「人権・平和」「生命尊重」などについて正しく理解し実践化することができる。

Ⅳ　年度の重点教育目標

1　重点教育目標の趣旨

自ら学び、共に高め合い、より確かな学力と豊かな心を育む

平成２７年度より５年間、重点教育目標を「伝え合い、認め合いにより、確かな学力と豊かな心をはぐくむ　~自立と共生~」として、その達成のために様々な教育活動に取り組んできた。しかし、喫緊の課題である学力の定着等については、解決に至らなかったことから重点教育目標を据え置き、他の課題も併せて解決をめざした。学習面においては、従前の取組に加え、保護者や地域の支援を受けて取り組んできた辞書活用、教材活用、放課後学習会、学習検定などの方策によって、学習習慣の定着や基礎学力の向上という面において成果を上げることができた。体力面においては、平成２９年度に「新体力テストの実施方法改善に向けた実践事業協力校」の指定を受け、フィジカルームの設置などの運動環境の改善、コーディネーション運動を位置づけるなどの指導方法の改善によって、体力、運動能力の向上を図ることができた。児童の自己有用感がなかなか引きあがらないという課題については、職員が丁寧な指導を進めるとともに、声掛け、励まし、称賛の場面を意図的につくる取組を通して、この４年間で児童の受け止めも大きく変わった。また、年度の中間である後期始業式の講話では、友達と「認め合うこと」、友達から「学ぶこと」などについて取り上げ、他とのかかわりについて意識するように努めてきたところである。令和２年度より改訂学習指導要領が本格実施となることから、重点教育目標を「自ら学び、共に高め合い、より確かな学力と豊かな心をはぐくむ」とし、教育目標の達成をめざしていきたい。

重点教育目標の設定にあたり、他とのかかわりを一歩進め、「自ら学び、共に高め合い」としたのは、個としての主体的な学びはもとより、自分を高めるために仲間の良いところから学びとることを積極的に考えることが重要と考えたからである。学びは個にとどまらず、集団の中で波及していくものでもある。各自の学びが集団の中で生きる場面が増えるほど一人一人の自己有用感は向上するであろうし、集団の質の高まりも期待できる。本校の児童は、他者への思いやりなどの気持ちはもっているが、それを適切に表現することがやや苦手としているという指摘があったが、学校生活全体の中で、一人一人のよさを学び、互いに高め合うことで、例えばいじめにつながるような何らかの差別感は払拭され、集団内に望ましい信頼関係がつくられていくものと考える。ひいては子どもの規範意識や倫理観、公共心や自他を思いやる心など「豊かな心」の育成につながっていくと考える。

2　重点教育目標達成の指標

重点教育目標の達成状況を評価するうえでの指標を次の通りとする。「教育目標の具現化のめざす姿」（一部）を指標として、学校評価のアンケート集約、標準学力検査、全国学力・学習状況調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果などから、子どもの姿の見取りを行い、評価を行う。

「確かな学力」の指標は、学校教育目標の「すすんで考えます・知」の４つの観点に対応する。「豊かな心」は、「めあてをもって努力します・意」の４つの観点と「人や地球にやさしくします・情」の４つの観点に対応する。

なお、今年度は「自ら学び」の指標を予習など主体的な学びが求められる場面に、「共に高め合う」の指標を日常生活や行事での振り返りの場面に設定した。

学校教育目標	重点教育目標	観点	低学年	中学年	高学年
		重点教育目標達成の指標			
すすんで考えます・知	自ら学び、共に高め合い、より確かな学力と豊かな心を育む	意欲・関心	○学習の基本的な態度を身につけ、楽しく学習することができる。	○学習の基本的な態度を身につけ、進んで学習することができる。	○学習の基本的な態度を身につけ、課題を持ち、学習を進めることができる。
		「自ら学ぶ」	**あらかじめ教科書を一読するなどの準備をして、学習に臨もうとする。**		**あらかじめ教科書に目を通し、用語や語句を調べるなどの準備をして、学習に臨もうとする。**
		聞く・話す	○話を最後まで聞き、自分の考えを相手にわかるように話すことができる。	○要点をつかんで話を聞き、自分の考えを筋道立てて話すことができる。	○自分の考えと比べながら聞き、相手や目的に応じて話すことができる。
		表現・学び合い	○話題や課題に沿って、話し合うことができる。	○互いの考えや相違点や共通点を考えながら話し合うことができる。	○自分の立場や意図をはっきりさせながら話し合うことができる。
		読書	○いろいろな本に親しむことができる。	○いろいろな本を進んで読むことができる。	○目的に応じて、図書や資料を読むことができる。
めあてを持って努力します・意		きまり・約束	○みんなのことを考え、きまりや約束を守ることができる。	○きまりや約束の大切さを知り、進んで守ることができる。	○社会や集団のきまりや約束を守り、進んで自分の役割を果たすことができる。
		目標・努力・やり抜く	○あきらめないで最後までやり抜くことができる。	○目標を持ち、最後までやり抜くことができる。	○目標実現のために、工夫しながら最後までやり抜くことができる。
		勤労	○清掃や係の仕事に慣れ、意欲的に働くことができる。	○自分のやるべき仕事を理解し、意欲的に働くことができる。	○自分のやるべき仕事を見つけ、意欲的に働くことができる。
		認め合い	○だれとでも仲良く活動することができる。	○互いに助け合い活動することができる。	○相手の気持ちや立場を考えながら活動することができる。
人や地球にやさしくします・情		あいさつ・言葉	○元気よくあいさつすることができる。	○明るく、元気にあいさつすることができる。	○時と場に応じ、明るく元気にあいさつがすることができる。
		やさしさ・思いやり	○友達のよさをみつけることができる。	○友達のよさを認め合うことができる。	○お互いの立場や考え、心情を尊重して交流することができる。
		「共に高め合う」	**友達のよさを自分の言動、行動に生かそうとする。**		**仲間とともに成長を喜び合おうとする。**
		生命尊重	○草花や小動物の世話をすることができる。	○身近な自然や動植物に関心を持ったり、美しさを感じたりすることができる。	○命の大切さを知り、美しいものや崇高なものに感動し表現することができる。
		ユネスコスクールとして	○身近な「人」「自然」「環境」などとのかかわりに気づくことができる。	○「環境」「文化」「人権・平和」「生命尊重」などについて正しく理解することができる。	○「環境」「文化」「人権・平和」「生命尊重」などについて正しく理解し実践化することができる。

Ⅴ　学校経営プログラム

学　期	前　期		後　期	
期	Ⅰ（４・５月）	Ⅱ（６～１０月前期終了）	Ⅲ（１０後期開始～１２月）	Ⅳ（１～３月）
総括目標	学級づくりを進め、学習や生活の基礎を固める。集団や個の実態を把握し、具体的な目標や方策を策定する。個の目標づくりをする。	集団や個の実態に応じた課題を見定め、指導支援を行う。個のよさを見つけ伸ばす。	集団での高め合いや協力により、個のよさをさらに伸ばす。	集団や個の１年間を振り返り、成果や新たな課題をはっきりする。自己肯定感や自己存在感を実感させる。
めざす子ども像の実現	やさしさ　やる気　こん気いっぱいの緑っ子			
体（なかよく元気に遊びます)	・遊びの推奨	・体力向上強化推進 ・健康・安全向上強化推進（含食育）	・健康・安全・体力の自発的・自律的な向上意識	・確かめる
知（進んで学びます)	・学び方や習慣を身につける	・力をつける ・表現力向上強化推進	・自信を深める ・学び向上強化推進 ・読書習慣強化推進	・確かめる
意（意欲をもって努力します)	・目標づくりをする（１次） ・勤労の取組強化推進 ・生活習慣の実態把握 ・集団活動のルールの意識化・定着	・実践する（１次） ・生活習慣の定着 ・集団活動の機能化	・目標づくりをする（２次）実践する（２次） ・生活習慣の定着 ・集団活動の自主・自立化	・確かめる ・達成感をもつ
情（人や地球にやさしくします)	・仲間づくり ・あいさつ向上強化推進 ・「人」「自然」「環境」などと関わる学習の課題を設定する	・自他のよさをみつける ・生命尊重の取組強化推進 ・課題を追求する	・認め合う ・力を身につける	・絆を深める ・感謝する ・確かめる
主たるプログラム	○遊び指導 ○学習・生活規律の定着指導 ○目標づくり ○いじめをなくす取組強化週間（５月） ○清掃等の勤労に関わる指導 ○あいさつ強調指導 ○生活・総合学習構想	○ハイパーQ-U の実施１回目（６月） ○体力向上取組（６・７月） ○栽培活動 ○人権（６月）・平和教育（９月）の取組 ○生活リズムチェック（６月） ○家庭学習強化週間①（６月） ○評価活動	○体力向上取組（１１・１２月） ○読書月間（１１月） ○いじめをなくす取組強化週間（１１月〉 ○生活リズムチェック（１１月） ○異学年交流 ○ハイパーQ-U の実施２回目（１１月） ○家庭学習強化週間②（１１月）	○評価活動 ○お世話になった人への感謝する場
主な行事、活動	入学式　運動会　プール　終業式・始業式　学芸発表会　スケート　卒業式・修了式 迎える会　修学旅行　宿泊学習　社会見学　校区清掃　送る会 稚魚放流　青葉公園　川の安全教育　発見千歳川　アイヌ文化　私探し 見守り隊対面式　集団下校　引取下校<隔年>本年実施せず　防災教育 環境整備　ｸﾞﾘｰﾝｾｰﾙ　親の会行事　もちつき			
学年教室分掌	学年部会・ことばの教室部会 校務部会			

Ⅵ　学校経営方針

基本姿勢：総がかりで子どもの自己有用感を高め、主体性を引き出す

1　チーム学校として教職員相互の信頼と協働による教育活動を推進する

教員が備えるべき資質能力については、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力等の不易の資質能力は引き続き教員に求められる。教員が高度専門職業人としてさらに認識されるために、学び続ける教員像の確立が重要である。自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を、生涯にわたって高めていくことのできる力も必要である。

また、変化の激しい社会を生き抜いていける人材を育成していくためには、教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々の状況に応じた適切な学びを提供していくことが求められることから、教員は、常に探究心や学び続ける意識をもつとともに、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力を身に付けることが求められる。一方、学校を取り巻く課題は極めて多種多様であり、新たな教育課題も枚挙にいとまがなく、一人の教員がかつてのように、得意科目などについて学校現場で問われる高度な専門性をもちつつ、これら全ての課題に対応することが困難であることも事実である。

そのため、教員が新たな課題等に対応できる力量を高めていくのみならず、「チーム学校」の考え方の下、教員は多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、教員とこれらの者がチームとして組織的に諸課題に対応するとともに、保護者や地域の力を学校運営に生かしていくことも必要である。このため教員は、校内研修、校外研修など様々な研修の機会を活用したり自主的な学習を積み重ねたりしながら、学校作りのチームの一員として組織的・協働的に諸課題の解決のために取り組む専門的な力についても醸成していくことが重要である。

2　学習の効果の最大化を図り、「生きる力」を高める教育活動を推進する

令和２年度より、改訂学習指導要領が全面実施となる。この指導要領は、少子高齢化、グローバル化、産業構造の変化などの予測に基づき、目的を「子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現する。」としている。具体的には、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携･協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現をめざすとし、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から、教育課程の理念や、新しい時代に求められる資質・能力の在り方、主体的・対話的で深い学び等について方向性が示されている。

また、持続可能な開発のための教育（ESD）等の考えも踏まえつつ、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むという理念のさらなる具体化を図るため、学校教育を通じてどのような資質・能力が身に付くのかを、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化し、知識・技能「何を理解しているか、何ができるか」、思考力、判断力、表現力等「理解していること・できることをどう使うか」、学びに向かう力・人間性等「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」と、学校教育で育成すべき資質能力の三つの柱を新たな観点としている。

とはいえ、働き方改革が叫ばれている中にあって、取組を新たに増やすことは、困難である。設定した目標を達成するための教育活動の質を多面的にとらえ直し、知・徳・体のバランスを保ちながら、カリキュラムマネジメントの確立を目指し、学習の効果の最大化を図ることが重要である。

3　児童の実態に応じて、主体的で協働的な力を高める教育活動を推進する

（1）学力面、体力面の現状と経年変化

ＮＲＴ集団基準準拠検査の結果によれば、全校では、教科総合の学力偏差値は、ほぼ正規分布であるものの、学年が上がるにしたがって上位層が減り、下位層が増える傾向にあった。また、その傾向が顕著なのは、算数科であった。前年度、全国学力・学習状況調査全教科で過去最高の結果を収めたが、今年度は、国語では全国平均正答率との差が 2.8P で、Ｈ３０年度までの国語 A、B の各全国平均正答率との差を平均した数値で比較した場合、過去最高となったものの、同様に算数では、5.6P に差が開いた。全国の下位約 25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合は、国語では同等、算数では 0.5P 多

いという結果になったが、少人数学習、ドリル活用、学習検定、放課後学習会、辞書活用などの取組が成果に表れていると受け止めている。どの教科も下位層が減り、中位層が増えたものの、上位層と中位層との中間の層に依然、谷が見受けられることから、中位層がさらに力を高めるような授業改善は今後も求められる。課題の解決について自分で考え、自分から取り組むことに改善が必要と考える。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、男女とも握力、反復横跳び、立ち幅跳びが向上した反面、50m走、長座体前屈が全国平均を下回った。なお、ソフトボール投げについては、多くの学年が全国平均を下回ったことから、全校的な課題として取り組む必要がある。

（２）生活面

過去に、自分のよいところを教員から認められていない、と答えた児童がいずれも 10%を超えた時期もあったが、職員、児童とも積極的に認め合い、褒め合う姿勢が定着し、自己肯定感、登校意欲とも過去最高となり、児童の受け止めは大きく改善された。就寝時刻の習慣化では、全体的には改善されてきたが、決まっていないと答えた児童が 6%おり、生活リズムが定着したとは言えない状況にある。家庭学習の実施率は、90%を超え全国平均と遜色なく、校内の家庭学習強化週間の調査結果においても全校の習慣化は進んだことがわかる。また、１日当たりの家庭学習時間は、1 時間以上と答えた児童がほぼ 70%であるなど、改善されるとともに、2 時間以上取り組む児童の割合が過去最高になった反面、全くしていない児童も 10%見受けられることから、2 極化に向かっているととらえられる。ドリル・辞書活用の取組によって、主体的に学習に取り組む素地が形成されつつあるので、取組をさらに進めて予習の習慣化を図り、自ら広く、深く学ぼうとする態度を育てていきたい。話し合い活動の受け止めについては課題が見られたが、学級会などにおいても大きな改善があり、伝え合うというテーマを扱った校内研究の波及効果がここにも見られた。

（３）地域とのかかわり

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対しては、参加していないと答えた児童が前年度より 20ｐ減った。地域への関心が薄いという課題はあるが、地域とのつながりを意識した取組の成果が表れてきたものと考える。

4　家庭、地域、他校種との連携による教育活動を推進する

社会総がかりでの教育の実現を図る上で、学校は、地域社会の中でその役割を果たし、地域と共に発展していくことが重要であり、とりわけ、これからの公立学校は、「開かれた学校」から更に一歩踏み出し、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」へと転換していくことを目指して、取組を推進していくことが必要である。すなわち、学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通じて、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し、学校の教育方針の決定や教育活動の実践に、地域のニーズを的確かつ機動的に反映させるとともに、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことが求められる。

学校と地域が連携・ 協働するだけでなく、子供の育ちを軸に据えながら、地域社会にある様々な機関や団体等がつながり、住民自らが学習し、地域における教育の当事者としての意識・行動を喚起していくことで、大人同士の 絆（きずな）が深まり、学びも一層深まっていく。地域における学校との協働活動に参画する住民一人一人が学び合う場を持って、子供の教育や地域の課題解決に関して共に学び続けていくことは、生涯学習社会の実現のためにも重要である。

一方的に、地域が学校・子供たちを応援・支援するという関係ではなく、子供の育ちを軸として、学校と地域がパートナーとして連携・協働し、互いに膝を突き合わせて、意見を出し合い、学び合う中で、地域も成熟化していく視点が重要である。子供たちも、総合的な学習の時間や、放課後・土曜日、夏季休業中等の教育活動等を通じて地域に出向き、地域で学ぶ、あるいは、地域課題の解決に向けて学校・子供たちが積極的に貢献するなど、学校と地域の双方向の関係づくりが期待される。

さらに、幼稚園、保育園との連携、中学校との連携は、ギャップを埋め、平滑な接続のために重要である。校区内に認定子ども園の設置がなされる中、幼保小連携としては、さらに入念な引き継ぎや教育方針の浸透などを進めていかなければならない。千歳中学校区の小学校として、小中連携プロジェクト等を意識しながら、連携を推進していかなければならない。

Ⅶ　重点教育目標達成のための実践課題

【方針１】　チーム学校として教職員相互の信頼と協働による教育活動を推進する	
1　学校経営・学校運営	（1）目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」へと転換していく。 （2）「チーム学校」の考え方の下、教員は多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応する。 （3）柔軟な運営組織・方法で効率的な分掌運営を進め、協力協働体制のもと業務推進する。 （4）学校評価計画を改善し、C（評価）－A（改善）－P（計画）－D（実践）の組織マネジメントに基づいた運営や教育活動を推進する。 （5）実態把握（R）を重視し、評価・改善・計画・実践を推進する。 （6）全体で学校経営プログラムに沿った学年学級、教室経営、校務経営プログラムを確認する。
2　校務経営、学年学級教室経営	（1）教育目標の具現化のために、経営方針を踏まえた、校務分掌方針・重点をプログラム化し、常に評価改善を図る。 （2）反省や見直しに基づき、よりよい行事、活動、取組となるようチームとして重点の達成をめざす。 （3）校務において、他分掌との連携・協働を意識し、管理職の助言も受けながら、学校運営が有機的に進むよう努める。 （4）通級児童一人一人の教育的ニーズに応える言語障がい教育の充実を図る。
3　職員研修	（1）ねらいを明確にした仮説検証型の校内研究と日常実践に生きる研修の充実を図る。 （2）言語障がい教育の専門性を高める研修の充実を図る。

【方針２】　学習の効果の最大化を図り、「生きる力」を高める教育活動を推進する	
4　教育課程	（1）教育目標の具現化を目指し,カリキュラムマネジメントを意識した教育課程の編成・実施を進める。 （2）教育課程の実施について、点検・評価を行い、指導時数の確保に努める。 （3）諸調査や学校評価の結果を活用し、教育課程の改善を進める。 （4）育成を目指す資質・能力など基本的な方針が家庭や地域と共有されるよう努め、社会に開かれた教育課程を実現する。
5　確かな学力	（1）学習規律の徹底など学ぶ構え、基盤などを組織的につくる。 （2）学力向上プランに基づき、基礎基本の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学ぶ意欲など、「確かな学力」の定着のために、指導と評価の充実、改善を図る。 （3）ＴＴ協力教授や少人数学習・習熟度別学習などの指導方法の工夫により、個に応じた指導の充実を図る。
6　健やかな体	（1）体力向上プランに基づき、体力の向上のために指導と評価の充実、改善を図る。 （2）安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導の充実を図る。 （3）発達段階に応じた性教育や食に関する指導の充実を図る。
7　豊かな心	（1）豊かな心育成プランに基づき、道徳科の指導と評価の充実、改善を図る。 （2）家庭との連携を密にして、思いやりの心や基本的生活習慣、規範意識の育成など、日常生活の基盤となる道徳性の指導の充実を図る。 （3）「命」や「人権」を尊重する豊かな人間性を育む道徳教育を進める。

【方針３】　児童の実態に応じて、主体的で協働的な力を高める教育活動を推進する	
8　生徒指導	（1）全教職員の共通理解・共通行動を基盤とした組織的・機動的な対応を行う。 （2）観察や調査などによる児童理解と教育相談活動の充実により、いじめや不登校のない学校づくりを推進する。 （3）生命尊重や男女協力など人間としての生き方指導の充実を図る。

9　特別支援教育	（1）特別支援教育コーディネーターを中心に、共通理解のもと校内支援体制の充実を図る。 （2）保護者や関係機関との連携の充実を図る。
10　教育環境	（1）校舎内外の環境の整備や美化（清掃活動）に努め、潤いのある生活環境づくりに努める。 （2）本校児童のよさや活動のよさが見える掲示活動の工夫を図る。 （3）言語環境を整え、適切な日常言語活動を促進する。 （4）教育活動や学習活動と関連させた指導等により、学校図書館の活用を促進し、読書意欲の向上を図る。 （5）計画的な学校財務の執行、関連団体との連絡など、学びの環境を整える。 （6）千歳川、青葉公園を題材やフィールドにした学習やゾーン 30 などの制度を本校の特色ととらえ、効果的に指導を進める。

【方針４】　家庭、地域、他校種との連携による教育活動を推進する	
11　保護者・地域との連携	（1）各種文書やホームページ、メールなどの配布配信により、子どもや教育活動の学校情報の発信の充実を図る。 （2）地域ぐるみの安全管理や健全育成を充実させるために、ＰＴＡ、地域、関係機関との連携の強化を図る。 （3）地域行事、関係団体への児童の参加と支援を行い、互恵的な関係を構築する。
12　幼小中連携	（1）平滑な接続を目指し、幼稚園、保育園との連携、中学校との連携を進める。 （2）小中連携プロジェクトについて「身に付けさせたい力」について系統的な指導を行う。 （3）幼稚園、保育園との入念な引き継ぎや教育方針の浸透を図る。

Ⅷ　今年度の最重要課題

1　基本的な学習態度のいっそうの育成

（1）全教職員の共通理解のもとでの学習のきまり（約束）を徹底させる。
（2）「聞く・話す・書く」の基本的な学習態度の定着と学習集団づくりを進める。
（3）「緑小学びのスタイル」に基づく学習過程の共通実践化により学びの充実を図る。
（4）保護者の国語辞典費用負担による２学年マイ・ディクショナリーの取組、学校所管の低学年向け国語辞典を使用しての１学年ディクショナリースタートの取組によって、わからない言葉があったら調べる習慣を醸成する。
（5）「家庭学習の手引き」を基本にして予習の習慣化を図る。

2　教師と児童、児童同士が互いに信頼し、よさを伝え合い認め合う学級経営の充実

（1）ふれあい（子どもと教師、子ども同士）を大切にし、一人一人のよさを生かした学年学級づくりを推進する。
（2）認め合う、高め合う場を学級における活動の中に計画的・意図的に設定する。
（3）子ども一人一人の実態や「困り感」に応じた個別の指導内容や指導方法の充実を図る。（特別支援教育）
（4）ハイパーＱ－Ｕの結果を活用し、学級生活の充実と望ましい人間関係づくりを目指した指導の充実を図る。
（5）学年内の実態に応じ、教師の得意分野を生かし、交換授業を行う。

3　確かな学力の育成をめざした学習指導の充実

（1）各調査・検査結果、レディネス等を踏まえ、見通しふりかえる場面を位置づけた、児童が「わかる」「できる」を実感する指導の構築。
（2）グリーンタイム（朝学習）や担外による放課後学習会、外部人材による学習検定等の補充的な学習等により、基礎基本の習得を確実なものとする。
（3）算数科においては、問題解決の過程で言語活動を充実し、主体的、協働的に解決を図る活動を通して、資質能力を高める。
（4）全学年統一したドリル・ワークの問題等をノートに書き写させ、繰り返し学習を定着させる。
（5）全員が授業公開１本を行う。

4　健やかな体、豊かな心を育む教育実践の充実

（1）コーディネーション運動を取り入れた指導の充実、フィジカルームの活用、元気アップチャレンジへの参加などを通して体力の向上を図る。
（2）ＡＬＴとの連携を図り、外国語科 5・6 年 70 時間、外国語活動 3・4 年 35 時間、1・2 年 5 時間を実施する。授業実践の記録化による指導計画の充実を図る。
（3）育てようとする資質や能力及び態度を明確にし、「自然」「環境」「福祉」「生命の尊重」などの横断的・総合的な学習を系統的に配置した指導計画の充実を図る。
（4）系統的に「アイヌ文化学習」に取り組む。
（5）プログラミングを体験しながら５学年においては算数科、６学年においては総合的な学習の時間において実践を行い、プログラミング的思考を育てるとともに、指導を蓄積する。中学年においては、プログラミング言語を扱う体験を行う。クラブ活動で扱うことも検討する。
（6）危機を予知し、回避する実践力を養うために、体験的・実践的な避難訓練、防災教育、防犯訓練等の充実を図る。
（7）校区の「ゾーン 30」指定を風化させず、交通事故ゼロ宣言と交通安全啓発運動を継続する。

5　主体的で協働的な態度や資質の育成を意識した教育活動の推進

（1）基本的な生活習慣の定着をめざして、家庭と連携をし、指導の充実を図る。
（2）学級活動の内容の精選や重点化を図り、学校生活の充実と望ましい人間関係づくりを目指した指導の充実を図る。
（3）道徳教育全体で自己努力と他者理解の大切さを学ぶ。
（4）教科や特別活動等との関連を図り、ユネスコスクールとしての活動の充実を図る。

6　緑小学校児童としての伝統、誇りづくり

（1）挨拶運動の工夫や教職員の率先垂範により児童の挨拶意識を高める。
（2）めざす子ども像「やさしさ　やる気　こん気いっぱいの緑っ子」の児童の日常的な意識化を図る。
（3）「おはよう・うたごえ集会」において、全校 2 部合唱曲を 1 年間繰り返し歌うことを通して、歌うことの楽しさを味わわせながら、高学年の美しい歌声を中低学年に引き継がせる。

7　危機管理体制の整備

（1）危機管理マニュアルとして危機管理に関する方針や方法を網羅し、全教職員の共通理解と実践力を高める。
（2）学校の信頼を損なう事故や事件を未然に防ぐための事例研修を充実する。